

熊本地震から学んだこと

新聞

五年
三城 輝 咲

発行日 2017年
(作成日) 12月13日(水)

熊本動植物園の
はじめは
昭和四年、水前
寺に開園。一万平
方メートル。一三
九種類ぐらいの動
物がすんでいた。
（今は一一九種類
ぐらい）
市民のいこいの
場としても愛され
ていた。だが、戦
争により昭和二十
年に閉園。
戦争後に開園し
たときは、動物の
数がすくなくなつた。
その後オス・メス
2頭のカンガルー
が来たが、入場者

数は五十万人。



▽熊本地震▽
去年の四月十四
日一回目の地震が
熊本市動植物園を
おそつた。夜の九
時二十六分、震度
六弱の地震たつた。
すぐにもうじゅう
エリアを確認し、
大丈夫たつたこと
が分かつた。その
後、夜の十時三

の分にほとんどの
職員が集合した。

「ライオンかに
げた」というウソ
の情報も流れ、動
物の安全を確認し
なからも一〇〇件
以上の問い合わせ
にも対応した。朝
の二時には、全て
の動物を確認が終
了した。
四月十六日の二
度目の地震では、
もうじゅう舎のマ
ッコのきれつや、
ユキヒョウ舎の天
井部分のきれつも
確認した。

きれつ発見

売店の前に深く
ちんぼつした穴。
いつおわるか分か
りません。動物も
悲しんでいます。



▲売店の前の穴。深く穴があります。

いつおわるかわか
らない復旧工事



マッコウ舎のきれつ。屋根では安全で安心でましました。

動物園

未来の

動物の心のケア

「ホッキョクグマ。体におどろきを感じているのが特徴です。」



ホッキョクグマも
久しぶりに人に会
た。
ホッキョクグマが
いるのは、非公開エ
リア。今回のように
大勢の人たちに見ら



▲耳だけしか見えないキツネ。少しこわがっているようです。



れるのは、久しぶり
なのでとてもうれし
そうだった。



キツネは、少し不安
そうにしていた。あ
まり体を見せてくれ
なくて、不安なのが
伝わってきた。
熊も、おとな
しくいた。
ツクモに
ゆるやかならも、久
しぶりに見る人を不
思議そうに見ていた。
アシゴ
ラゴロ
ブスも
一緒だ。
おとな
しくし

アシゴロブス。高い所から私たちを

ていて、動物園のよ
うな、キャット
という鳴き声は、き
こえてこなかった。
私が考える。
未来の動物園
今のようなおりが
こわれているままで
はダメ。動物といっ
しよにおりにはいれ
たり、あそべたりで
きる施設もあつたら
ふれあいもでき、楽
しい。目線も同じに
すると、動物が人に
なれてくれて、同じ
しせんで物を見れる
から良いと思う。
私は、動物と人が
いっしょにいれる動
物園が良い。

私の考える未来の動物園は

- 1° 熊本の自然を生かした動物園
- 2° 動物と同じ目線でいれる動物園
- 3° ちかうすがたが見れる動物園

そのために次のアイデアを提案します

- 1° 自然を生かして、木を植えたりして、動物のまわりをはなやかにする。
- 2° 危険じゃない動物のおりにはいい、動物がいつも過ごしている環境を体験したり、同じ目線で見れるようにする。
- 3° わざと動物のおりには、屋根をつけず、人が見るところに屋根をつけて、雨の日の様子、暑い日の様子、寒い日の様子などいろいろ見れるようにする。

名前

三城 輝咲